

ほうじゅさんぎんりゅうじ

宝珠山金龍寺

所在地	石狩市新町4番地
宗派	日蓮宗
本尊	十戒未曾有大曼荼羅
創立	安政6(1859)年



金龍寺は、京都の公家外山家の出である外山貞妙師が、安政6（1859）年に布教を始めたと伝えられています。名の由来は、幕府函館奉行所石狩詰調役の荒井金助の弟栄太郎が亡くなり、その冥福を祈るために、荒井金助の金の一字と達磨という人が来て龍の夢を語った事から「金竜庵」とした、と「石狩の碑」に記されています。その後、明治13（1880）年に寺号公称が認められ、金龍寺と改称されました。札幌地区では最も古い日蓮宗寺院です。

本堂には、日蓮上人、十戒未曾有大曼荼羅、鬼子母尊大神十羅刹女が、本堂の右隣にある妙見堂には、妙見菩薩、八大龍王、妙鮫法亀善神が祀られています。

妙鮫法亀善神は、生振村で鮭漁場を経営していた古谷長兵衛が明治22年（1889）年に奉納したもので、平成19（2007）年に北海道有形民俗文化財に指定されています。

境内には、北前船で運ばれ船の乗組員が奉納したと思われる手水鉢があり、「千秋丸水主中」「安永3（1774）年」と刻まれていて、石狩では最古のものです。

また、石狩詰役人である大野傳左衛門正庸（徳川幕府函館奉行所に在勤した役人で安政4年に石狩詰となり石狩シブ在任としてシブを開拓したが、安政7年11月28日に没した）の墓と、村田小一郎（石狩詰役人として荒井金助が建てた「教導館」や武道館に勤め、函館から玉及び雷管を取り寄せ洋風の鉄砲教授に当たった）の墓があります。

金龍寺では、2月に水行が行われる「節分会星祭」や8月の盂蘭盆会の灯籠流し等の一連の仏教行事が行われています。

（三島照子）

- (1) 石狩町（1997）石狩町誌／下巻、石狩町。
- (2) 石狩町郷土研究会石碑調査班（1987）石狩の碑／第1輯、石狩町郷土研究会。
- (3) 石狩町郷土研究会石碑調査班（1988）石狩の碑／第2輯、石狩町郷土研究会。
- (4) 瀬野一郎・吉永繁起・高瀬たみ（2001）石狩本町・八幡市街地ぐるっと案内、（社）石狩観光協会。